

スポーツ国際開発リカレント研修 開催案内

2020年から続く新型コロナウイルス感染拡大によりスポーツの価値が問われる中、スポーツ国際開発・協力活動の主要な担い手であるSFTC会員団体・関係者のグローバルな社会課題及び急激な社会環境の変化への対応力が必要とされています。

この度、SFTC会員団体・関係者を対象とするスポーツ国際開発リカレント研修プログラムを筑波大学・鹿屋体育大学・JSCが共同して運営するスポーツ国際開発学共同専攻と連携して開発し、提供させていただくことになりましたので下記にご案内いたします。

1. 目的：

2014年から7年間にわたり設置・展開されているスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム（SFTC）のレガシーを国内外に定着させ、さらに発展させていくために、スポーツ国際開発人材の能力・組織力強化を図り、より高い水準でスポーツ国際開発・協力事業を継続できる知識・知見を共有し、実践へ応用できるようにする。

2. 対象：SFTコンソーシアム会員団体関係者

3. 開催時期：令和3年10-12月（日程の詳細は「11. 講義スケジュール」参照）

4. 時間：17:00-18:15 75分/回（集中講義のみ17:00-18:30 90分/回）

5. 形態：オンライン研修

6. 定員：各回30名

7. 参加費：無料

8. 申込方法：

参加申込み URL：<https://forms.office.com/r/vn0hM9CN40>

1コマからの受講可。ただし①は必修（推奨）科目。⑨⑩⑪の集中講義は3講義受講が必須。

9. 内容：

テーマ1 スポーツ国際開発の基礎講座

講師：山口 拓（筑波大学）

講義概要：

日本のNPO組織は、その動機が「行政的な義務感」でも、「商業的な営利追求」でもなく、社会課題に対する善意の正義感に基づいていることが多いことから、その活動を担う人

材の社会的身分が確保されていないことも少なくない。

これは長らく、日本にNPOが法人化されるまでの歴史において、任意団体として、歩んできた歴史や日本における宗教的観念に由来する社会通念上の「善行」に対する理解の影響から来していると推察される。

本講義では、SFTCの屋台骨ともいえる会員団体が自らの組織構造やプログラム構造を理解するための基礎的知識を提供し、組織やプログラムの位置づけを再確認することを最終的な目標とする。その際、「スポーツを通じた開発」の役割についても考察する。

講義計画：

第1回 「スポーツ国際開発概論」

第2回 集中講義：「論理的枠組み形成①」

第3回 集中講義：「論理的枠組み形成②」

第4回 集中講義：「論理的枠組み形成③」

(第2回・3回・4回は集中講義。3回受講が必須)

テーマ2 ソーシャルジャスティスとダイバーシティの推進

講師：佐藤貴弘（筑波大学）

講義概要：

この講義では、海外の体育・スポーツの歴史、研究、文化を学ぶと共に、グローバルな視点と課題を探究することを目的とする。受講終了時における学習目標を4項目示す。1) 質的研究方法論、2) アダプテッドスポーツと体育、3) 人種とスポーツ、4) 多文化共生、で構成されている。講義はすべて日本語で行い、オンラインを使った講義、またディスカッションも取り入れることにより、国際的な体育・スポーツ実践に精通した人材を育成する。

講義計画：

第1回「アダプテッドスポーツ・体育を通じた開発と教育課題」

第2回「人種とスポーツ：偏見とリバースレイシズム」

第3回「多文化共生のなかでの個人主義、団体主義について」

第4回「質的研究方法論」

テーマ3 柔道における国際貢献

講義概要：

国際普及・貢献活動の起源を明治時代にまでさかのぼる日本柔道界は長年の活動を通じて多くのノウハウを蓄積してきた。特に(公財)講道館は世界中の国々において柔道の紹介、人的・物的支援、人材育成、組織/イベント運営の支援等、多方面にわたる活動を試行錯誤しながら成功に結びつけてきた。本講義ではSFTC会員団体の国際開発活動のステップアップに向けたヒントとなるように、講道館を中心に日本柔道界が持つ経験とノウハウを共有する。

講師：中村 勇（鹿屋体育大学）他

講義計画：

第1回「講道館の国際普及・貢献システム」

第2回「柔道初期の国際普及・貢献活動」

第3回「IFや国際世論との付き合い方」

テーマ4 スポーツの可能性と向き合う～グローバル・国際という視点から

講義概要：

パンデミックという困難な事態において、世界が抱えるさまざまな社会課題が顕在化している。このような状況において、それを乗り越え、新たな社会を支えるために今後、どのような「人材」が求められるのか。本講義では「国益とグローバル益」、あるいは「グローバリズムとナショナリズム」の関係性などからスポーツを通じた人材育成について考える。

講師：勝田 隆（日本スポーツ振興センター／筑波大学客員教授）

講義計画：「スポーツの可能性～グローバル・国際という視点から紐解く」

10. 講師プロフィール：

佐藤 貴弘（筑波大学）



筑波大学体育系教授。専門分野は体育科教育、インクルーシブ教育。米国大学で体育科教育・アダプテッド体育博士課程修了博士号取得後、2007年からバージニア州にある歴史的黒人系大学ハンプトン大学体育科教育助教、2010年から2019年までオハイオ州にあるケント州立大学アダプテッド体育助教と准教授として教鞭を執る。2019年7月に帰国し、筑波大学体育系教授に着任、2020年からスポーツ国際開発学共同専攻長として教育・研究活動を行っている。

【主な著書】「Inclusive Physical Activities: International Perspectives（共著）」、「Pump it up: Literacy Activity for Classroom（共著）」など。

山口 拓（筑波大学）



筑波大学体育系助教。専門分野は開発人類学、政策科学、マネジメント。国連教育科学文化機関（UNESCO）IPL 専門家。スポーツ国際開発の実践者として在外で15年以上勤務し、(特活)ハート・オブ・ゴールドの理事・事務所長、JICAプロジェクトマネージャーなどを経て、現職。2016年にロイヤル・モニサラポン勳章大十字章を受勳。

【主な著書】「スポーツレガシーの探求（共著）」、「カンボジアにおける教育政策に関する一考察」、「体育科教育の普及課題、体育学研究・第57巻1号」など。

中村 勇（鹿屋体育大学）



鹿屋体育大学体育学部講師、柔道部監督。専門分野は柔道、武道学。米
国大学卒業後、講道館及び全日本柔道連盟によるカラー柔道衣対策チー
ムに参加。国際柔道連盟（IJF）教育コーチング委員会スタッフを6年間
勤め、現在IJF ベテランズ委員会委員。全日本柔道連盟で国際委員会副委
員長として指導者・競技者の海外派遣や受け入れを担当。国際交流基金
モザンビーク・ボツワナ巡回使節団団長（2012年）。

【主な著書】「柔道を通じた国際理解・貢献、公認柔道指導者養成テキスト A 指導員（共著）」、「全日本柔道連盟、柔道の礼法と武道の国際化に関する考察」、「鹿屋体育大学学術研究紀要・36号」など。

勝田 隆（日本スポーツ振興センター／筑波大学客員教授）



筑波大学客員教授、博士(スポーツ科学)。専門分野はコーチング、スポ
ーツ情報戦略、スポーツ・インテグリティ。現在日本スポーツ振興セン
ター理事、JSC ハイパフォーマンススポーツセンター長、国際コーチン
グ・エクセレンス評議会理事などを務める。先に国立スポーツ科学セン
ター長、ナショナルトレーニングセンター副センター長、スポーツ庁参
与、ラグビーワールドカップ2019 組織委員会評議員、東京オリンピッ
ク・パラリンピック競技大会組織委員会インテグリティ・アドバイザー等務めてきた。

【主な著書】「スポーツ・インテグリティの探究」、「知的コーチングのすすめ」など。

11. 講義スケジュール：

#	月/日	曜日	時間	講師	講義内容
①	10/7	木	17:00~18:15	山口	スポーツ国際開発概論
②	10/14	木	17:00~18:15	中村	講道館の国際普及・貢献システム
③	10/21	木	17:00~18:15	佐藤	質的研究方法論
④	10/28	木	17:00~18:15	中村	柔道初期の国際普及・貢献活動
⑤	11/4	木	17:00~18:15	佐藤	アダプテッドスポーツ・体育を通じた開発と教育課題
⑥	11/11	木	17:00~18:15	佐藤	人種とスポーツ：偏見とリバースレイシズム
⑦	11/18	木	17:00~18:15	佐藤	多文化共生のなかでの個人主義、団体主義について
⑧	11/25	木	17:00~18:15	中村	IF や国際世論との付き合い方
⑨	11/30	火	17:00~18:30	山口	集中講義：論理的枠組み形成①
⑩	12/1	水	17:00~18:30	山口	集中講義：論理的枠組み形成②
⑪	12/2	木	17:00~18:30	山口	集中講義：論理的枠組み形成③
⑫	12/13	月	17:00~18:30	勝田	スポーツの可能性～グローバル・国際という視点から